



アジア仏教美術論集

全十二巻

宮治昭・肥田路美・板倉聖哲 監修

インドに興った仏教がアジアに広く伝播し、受容され、展開を遂げる大きな推進力となった仏教美術。その様相と特色を、思想や信仰、社会や政治、他地域や他宗教との関わりから読み解き、現在のアジア仏教美術研究の到達点を提示するシリーズ全十二巻。

各巻 定価六、三八〇円（本体五、八〇〇円＋税一〇％）

※『東アジアⅦ』アジアの中の日本』のみ

定価六、八二〇円（本体六、二〇〇円＋税一〇％）

全巻セット 定価七、七〇〇円

（本体七、〇〇〇円＋税一〇％）

本シリーズは、彫刻・絵画・工芸・建築などを含めた仏教美術が、アジア各地域・各時代においてどのような様相や特色を見せ、そこにいかなる問題が存在しているかを示すべく、地域・時代別に全12巻で構成する。様式論や図像学、年代論といった基礎的なアプローチはもとより、思想や信仰、社会や政治など、様々な分野と関わって生成、発展した様相を明らかにすることを目指している。造形から何が読み解けるかという視点をもって、仏教学・考古学・歴史学・宗教学等と関連させながら、多様で豊潤なアジアの仏教美術に新たな光を当てていく。

各巻の論文は、国内の研究者のみならず、広く各国の第一線の研究者に執筆を依頼する。そこに見られる方法論の相違はまた、それぞれの国における研究の伝統と動向を映し出すものとなる。

本シリーズが、アジアの仏教美術に関する研究の現在の到達点を明らかにし、将来の可能性を拓く第一歩となれば幸いである。

（『アジア仏教美術論集』刊行にあたって』より抜粋）

【シリーズ監修】

宮治 昭

（名古屋大学名誉教授 / 『南アジアⅠ』『中央アジアⅠ』『東アジアⅦ』責任編集）

肥田路美

（早稲田大学文学学術院教授 / 『東アジアⅡ』『東アジアⅦ』責任編集）

板倉聖哲

（東京大学東洋文化研究所教授 / 『東アジアⅢ』『東アジアⅣ』『東アジアⅦ』責任編集）

【各巻責任編集】

福山泰子（龍谷大学国際学部教授『南アジアⅠ』）

塚本鷹充（東京大学東洋文化研究所教授『東アジアⅢ』）

立川武蔵（国立民族学博物館名誉教授『南アジアⅡ』）

宮崎法子（実践女子大学文学部教授『東アジアⅤ』）

森 雅秀（金沢大学人間社会研究域教授『南アジアⅡ』）

井手誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授『東アジアⅥ』）

肥塚 隆（大阪大学名誉教授『東南アジア』）

朴 亨國（武蔵野美術大学美術学部教授『東アジアⅥ』）

濱田瑞美（横浜美術大学美術学部教授『東アジアⅠ』）

〔巻数順・所属は刊行時〕

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル 6F

TEL 03-5577-4797 FAX 03-5577-4798

お取り扱い